

# 『兵庫県立美術館の秘密』

**私**

は、今までに数回、兵庫県立美術館へ展覧会を鑑賞に行ったことがあります。でも、兵庫県立美術館で一体どんな仕事が行われているのかはほとんど知りませんでした。今回、初めて、兵庫県立美術館で職場体験する事になり、いろいろなことを知ることができました。

初日は美術館の仕事について説明を聞きました。話を聞きながら、「大変そうだ。でも、楽しそう!」と興奮していました。そして、実際に働いてみたら、楽しい事・知らなかったから驚いた事・想像以上に大変な事がたくさんありました。

楽しい事の1つには、担当してくれたお2人が私たち実習生とコミュニケーションを取る際に、わかるように楽しく筆談してくれたことでした。筆談自体を面白がってくれたり、美術館のスタッフのみなさんは笑顔で話をしてくれたことが、とてもうれしかったです。

説明を聞いてはじめて知って驚いた事は、開館以来40年をかけて8,000点以上の作品を収集しているということでした。その作品を保管するために大きな部屋(収蔵庫)がありました。分厚い金属の扉で閉ざされていました。作品をいい状態で保つため温度や湿度が一定に保たれているそうです。また、館内で火事が起こった時には、水ではなく窒素ガスで消火するそうです。火事が起きても作品を傷めてしまうので、水で消火できません。そのかわりに窒素ガスをつかうそうです。窒素ガスを流すことで酸素の割合を下げて、火の勢いを止めるのです。(室内の酸素の濃度が下がるので、早く避難しないと息苦しくなります!)

## 保存修復室はすごい!

**保**

存修復室は、兵庫県立美術館の大きな特徴です。作品の状態を細かくチェックします。顕微鏡やレントゲン写真を撮る装置も備えられていました。作品1つ1つの状態をチェックし、必要ならクリーニングをします。傷んだ部分があれば、それ以上痛みが拡がらないような作業をします。別の部屋では、版画のような紙の作品を補修していました。紙には、酸性の成分を含んだものがあるそうで、その酸が作品を変色させるのです。実際に変色した部分を見て驚きました。また、紙の作品を額装するとき使う“のり”を作る作



< 保存修復室・のり作り >

業も見学しました。作品に害のでない自然の成分で作っているそうで、平安時代から受け継がれていると知ってますます驚きました。

## 美術情報センターもすごい！

**美**術館には、美術に関する専門書をあつかった図書館があります。「美術情報センター」です。ここでは誰でも無料で利用できます。全国の美術館で行われている展覧会のチラシや案内はがきを見ることができます。展覧会のポスターもたくさんはつてあります。この部屋にはたくさんの美術の本や絵本、資料等がありました。初めて入った時は、たくさんの資料やパソコンがあったので、本当に図書館みたいでした。



<はがきの仕分け作業>

紙の資料だけでなく、DVDなどの映像資料があり、自由に見たい美術の映像ソフトを鑑賞出来る「AVコーナー」が設けられています。また、パソコンで蔵書や収蔵品を調べることができる「検索コーナー」美術に関する雑誌の他、一週間分の新聞が揃っています。ゆったりとしたスペースでくつろげます。

私たちが行った作業は、展覧会のチラシや案内ハガキの整理です。展覧会の会期をよく見て、期限が近くなってきたチラシを見やすいように上に乗せていきました。また、期限が切れてしまったチラシを見つけて回収しました。

新しく入ってきた案内ハガキは5つの地方で分けます。兵庫、京都、大阪、東京、その他の5つポストカード入れの青いファイルがあります。

1枚ずつ(表裏)をめくりながら、期限が切れてしまったハガキを見つけて取ります。期限が近くなっているハガキを見つけて、前へ移します。新しく入ってきたハガキを含めて、順番に入れます。このように新しく入ってきたチラシ・ハガキを毎日毎日、整理するそうです。「うっわー！大変そう！整理するのを忘れてしまったら、お客様に迷惑をかけるしまう。」と思って驚きました。



<美術情報センター>

## 展示室もすごい！

**兵** 庫県立美術館での実習期間、ちょうどコレクション展 が終わり、作品を搬出したり、次のコレクション展 のために会場を整備していました。普段、見ることのできない展示会の裏側をのぞくことができ嬉しかったです。そして、その作業について、細かなところまでいろいろと教えてくれた学芸員さんには感謝です。

その中で、学芸員さんから、絵画の作者の考え方や、展示作品の並べ方などを教えてもらいました。

どの様に作品を展示するかは、その作品の色あいや形、大きさをもとに考えるそうです。照明の位置や、光のあてかたも考えるそうです。お客さんに楽しんで見てもらえるよう、また、お客さんがスムーズに流れるよう展示する位置を考えるようです。そのため、展示室の壁を動かして、部屋の配置を考えるそうです。展示会の準備がこんなに大変であることをはじめて知りました。



展示壁の移動は重かったです。

## 『麗子登場！！名画100年・美の競演』

**実** 習中に開催されていた「麗子登場！！名画100年・美の競演」展を鑑賞しました。その中から、私はある2つの作品を見つけました。気に入りました。まず1つ目の作品は、国枝金三の『大阪街景』です。その絵の中を見た時は「ん!?!」と思いました。気に入る所があります。

真ん中の壁がありますが、その左の部分を注目して見てください。“ろ”の字のように曲がっています。その壁は薄い壁だと思いました。でも、薄い壁なのに窓があります。「どうやって、窓を開けるんだろうか・・・?」と非常に気になります。国枝金三さん、大阪のどこを描いたのですか？実際に描かれた場所を見に行きたいと思いました。もう1つの作品は山口蓬春の日本画『宴』です。パッと見た時に「とってもかわいい!」と思いました。優しく微笑んでいる3つの埴輪がかわいいです。空の色が薄暗いので、多分、日が沈んでいる途中かもしれません。でも、青くて綺麗です。カリカリと痩せて枯れた木や広くてサラサラの砂漠を見たら、簡単に覚えてしまう絵でした。目を閉じるとそこに居たような感覚を覚えます。私には、3つの埴輪が「お水をください」と言っているような気がします。私は、3つの埴輪が持っているお椀や壺に水を注いであげたいです。その絵画の色が綺麗だし爽やかで落ち着きます。

## 麗子展担当の吉田学芸員に聞く！

**麗**子展を見た後に、麗子展の展示を担当した学芸員の吉田さんに話を聞く機会がありました。私は気になることを聞いてみました。

**Q.「なぜ、『麗子登場！！』というテーマにしたのですか？」**

A.「今回は、神奈川県立美術館とコレクションをあわせて100年の洋画の歩みを振り返ろうとしている展覧会です。で、麗子さんは神奈川県立美術館の代表作品。この麗子さんの絵がここにある麗子さんのお父さん(岸田劉生の自画像)に会えるという状態を生み出すと面白い、と考えました。神戸に麗子さんが登場、というのはそういう意味です。決して、麗子像ばかりの展覧会じゃないんです。でも、もう1つの理由があります。みんなが知っている絵なら、みんなが見に行きたいと思ってくれるかな、と考えました。そして、麗子さんの絵だけでなく面白い作品をたくさん展示するので、きっと、満足してくれる。と考えました。」

ほう・・・、なるほどです。

## 兵庫県立美術館での職場体験をふり返って

**毎**日美術館には、たくさんのお客さんが来られます。そんなお客さんへの対応も実習中に体験しました。麗子展会場の入り口でチケットをもぎる役をしました。2時間ずっと立ったままで、次々にこられるお客様に笑顔で挨拶しました。他にも、お客さんの目には触れない地下の倉庫を掃除しました。大量のゴミを分別し、床を掃いたり、汗だくになりました。お客様に配るパンフレットにシールを貼ったり、たった5日間の体験だけでも、いろいろな仕事を体験しました。私たちは体験しなかったですが、美術館には、作品監視として、ずっと座ったまま様子を見守る方や、24時間体制で兵庫県立美術館を見守っている警備の方もいます。たくさんの方がそれぞれの役割をがんばっているから、すてきな美術館になっているのだと思いました。

この5日間はとても短く感じましたが、その間いろいろな体験ができてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校 高等部 上田仁子